

シルクコーティングによる愛媛柑橘の消費期限延長事業 柑橘農家の販売機会損失やフードロス問題の解決を目指す

採択事業者名

ユナイテッドシルク株式会社

コンソーシアム構成員

マルワ果樹園(株式会社新口農園)



勉強会の実施概要

コンソ内部のみ		含む外部	
実施回数の累計	10	実施回数の累計	1(予定)
参加人数のユニーク累計	28	参加人数のユニーク累計	10(予定)

代表的な実施事例

狙いとゴール	本事業の進捗状況や成果を共有し、シルクコーティングの有用性を明らかにする。外部向けに発信することで興味関心を高め、社会実装までの道筋を描く。
実施の成果	シルクコーティングにおける課題が明らかになり、次年度以降の改善策としてコンソーシアム内で共通認識を得ることができた。 ①※※、②※※、③※※
実施アジェンダ 協議内容	事業概要から始まり、※※※※、※※※※より実証成果報告や意見交換を行った。次年度に向け、※※における課題や検証の方向性についても検討した。
参加者の一例	上記コンソーシアムメンバー(県内柑橘農家、JA、流通業者を対象とした外部向け勉強会を計画中)
次年度以降の 想定アクション	今年度明らかになった課題を整理し追加の実証実験を行い、消費期限延長に資するエビデンスデータの取得、あらためて外部向け勉強会を年1回以上実施する。

データ活用・協議の具体例

重要指標例

- ※※に応じた、適切なシルクコーティング(※※、※※)の調整
→※※に応じたシルクコーティング=消費期限延長の最適化

実装前

実装後

賞味期限延長に
資する取り組み

- 保存方法や配送方法への工夫は国内各所で見られるものの、柑橘(農水産物)に本来備わっているそもそもの消費期限を伸ばすという根本的な課題に対してはアクションは行われていない。

- 愛媛柑橘の収穫時、あるいは選果時にシルクコーティングを施すことで消費期限を延長させることができ、より鮮度を保って流通先に納品すること、あるいは海外輸出の障壁を下げるができる。

データ活用
実行

- 生産者が自ら消費期限に関してデータを取ることはなく、経験や勘、気象情報を頼りに生産や収穫を行っているに留まる。

- 本事業によって得られた知見を共有することで、※※に応じて適切なシルクコーティングを施し(※※、※※)、消費期限延長の最適化を行うことが可能になる。

業務反映
協議

- 柑橘(農水産物)に本来備わっている消費期限の延長に対して議論がなされることはなく、問題点として指摘されることがない。

- 農家や選果場に作業負荷を課することなく実装が可能であることが実証されており、導入メリット(消費期限延長に伴う売上増)を低いハードルで得ることができる。

代表的な実施事例

新口農園より「柑橘が出回らない時期にシルクコーティングして長期保存した柑橘を市場に出せれば、3倍の単価で販売できるかもしれない」というコメントをいただき、実証を継続しているところである。

項目	これまで	データ活用・協議を踏まえて
出荷のタイミング	生産時期に応じて出荷	出荷タイミングをコントロールし、 優位な価格で市場に供給する